

令和4年4月19日に実施された「全国学力・学習状況調査」について、今後の教育活動に役立てるため、本村の結果を分析しました。その概要をお知らせします。本調査での測定は学力の一部であり、学校教育活動の一側面です。

## 1 調査の概要

### ・調査内容

教科に関する調査（小学校調査は、国語・算数・理科 中学校調査は、国語・数学・理科）

### ・出題内容

- ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

## 2 調査結果の概要

### （1）教科に関する調査結果の概要

#### 【小学校（6年生）】

	全国平均正答率	下回る	やや下回る	同程度	やや上回る	上回る
国語	65.6%		○			
算数	63.2%			○		
理科	63.3%			○		

#### 【中学校（3学年）】

	全国平均正答率	下回る	やや下回る	同程度	やや上回る	上回る
国語	69.0%			○		
数学	51.4%			○		
理科	49.3%			○		

### （2）教科に関する調査結果からの考察 ※ ○→成果や傾向 △→課題

#### 【小学校（6学年）】

##### 国語科

○「我が国の言語文化に関する事項」に関しては3四の問題1問のみで、二つの文章の違いを見つけるような問題。視覚的な面から判断できるということで、答えやすかったのではないかと考えられる。当然誤答率は全県や全国に比べ低い。無回答が、全県、全国に比べやや高くなっているが、個票から、時間内にこの問題まで到達できなかったという理由も考えられる。

△「言葉の特徴や使い方に関する事項」は、3三に出てくる漢字の問題への正答率の低さ、無回答率の多さが課題となった。詳細結果を見てみると、「上記以外の解答」の割合も高かった。無回答が多いただければ時間内に到達できなかったことも考えられるが、「上記以外の解答」が多い

ことから、単純に漢字の習得ができていない児童が多いことがわかる。漢字の習得が課題である。

○読むことに関しては若干全県、全国に比べて高かった。主に2の問題からであるが、登場人物の行動や気持ちを叙述から捉える問題では若干高くなっており、登場人物の相互関係について描写から捉える問題ではほぼ同じであった。物語文の授業で、登場人物の心情変化や相互関係などについてよく学習し、身につけていたと考えられる。また、ここでの記述式の正答率が全県、全国に比べて高いことから、物語を読んで感じたことを書ける児童が多いと言える。

△話すこと・聞くことは、1三は、質問で知りたかったことが何かを答える問題であり、よく読めば、質問に対する答えに対してもう一度答えるところに「答え」が書かれているのであるが、そこまで見ずにその質問に対する答えの文章から考えたため誤答した可能性がある。よく読めば正答を選べる問題である。1四は記述式の問題であり、条件を満たすことで正答となる。全県、全国より高かった解答は、その条件の一つを満たしていないため誤答となっていることが多かった。特に条件にあった「解決方法」を自分で考えるという点が、難しいと感じ、書けなかったのかもしれない。文章を読み取って自分の考えを書くことは課題と言えるかもしれない。

○全体的にみると「記述式」は全県、全国に比べて高かったことから、書くこと自体は苦手ではないと考えられる。児童が頑張った結果であると言える。また、学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことは今後の対策となる。

○登場人物の相互関係について、描写を基に捉える。文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整える。話し言葉と書き言葉との違いを理解する。については、全国と比べ高かった。

#### 今後の対策

- ・漢字の習得はこれからもコツコツ行い、宿題だけでなく、普段から漢字を書くことなどに気をつけさせたい。
- ・条件がある作文を書く練習も折を見て行う必要がある。
- ・学年別漢字配当表に示されている漢字の特に書き問題については、国語で文章を書く時に習った漢字をなるべく使って書くことが必要である。
- ・語彙力を伸ばすため、表現活動を行う際は言葉の学習を使用場面とともに学んでいく。

#### 算数科

○2(2)割合 と 2(4)割合

5年、割合の単元は少人数学習の中で何度も図を描いて、時間をかけて取り組んできたもの。

少人数学習の中で、線分図を描いたり、関係図を描いたりして何度も繰り返し取り組んだことが、成果につながった。

○4(1) 正多角形

5年生算数でスクラッチ等プログラミングのソフトを利用しながら、様々な正多角形を描く活動を行い、実際に取り組んでみたことで理解が深まった。

△1(3)理由を書く(記述)

記述式問題は、書かなければならない条件の片方だけを書いている児童が多かった。記述式ではあるが、参考にする文章があつての記述なので、正確に文章を読んだり、書いたりする力を高めていきたい。

△1(4)概数

概数＝四捨五入という考え方にとらわれてしまい、応用問題に正答できなかった児童が多い。

## △2 (1) 百分率→分数

割合が小数でも、分数でも、百分率でも表すことができるという意識が低く、上記以外の回答がとても多かったように思える。百分率から小数へ直す計算は多く取り組んできたが、百分率から分数へ直す問題にはあまり触れてこなかったことが影響している。

○示された場面を解釈し、除法で求めることができる理由を記述できる。図形を構成する要素に着目して、長方形の意味や性質、構成の仕方について理解している。などはよくできていた。

### 今後の対策

- ・計算を面倒くさがったり、嫌がったりする児童が多く、四則計算を正確に行うことが苦手であるが、基本が大事であるので定着できるようにしていきたい。
- ・記述式は、日々の学習で、算数の語彙を増やすことを意識して取り組んでいる。説明を書くことにも進んで取り組む姿が見られるが、より正確に文章が書けるように取り組んでいきたい。
- ・問題の式と答えだけを考えさせるのではなく、なぜそうなるのか、なぜそのような答えになると考えたのかを考え、文章で表す活動を取り入れる。
- ・割合の問題が苦手な児童は多いので、様々な単元において割合の考え方を取り入れることで知識の定着を図る。

### 理科

○知識・技能で全県比、全国比共に高かった。日頃からグループでの実験や観察に意欲的に取り組んでいたことが考えられる。また、実験をやりっぱなしにせず、図や表、言葉で結果をしっかりとまとめてきたことが成果として表れたと思われる。

○学習指導要領の A 区分「粒子」を柱とする領域でも全県比、全国比共に大きく上回っていた。器具の名前や扱い方、二つの現象からわかるものを答える問題は特に全国、全県に比べて正答率が高かったことから、児童に学習内容が定着していることがわかる。教科書、学習帳、プリントなどで十分に理解を深めているからではないか。

○提示された情報を、複数の視点で分析して、解釈し、自分の考えをもつことができる児童が多かったため、今後も継続して適切な指導を行う。

○自分で行った観察で収集した情報と追加された情報を基に、問題に対するまとめを検討して、改善し、自分の考えをもち、その内容を記述できているので、今後も継続して適切な指導を行う。

△1 (2) の記述式の問題では、全国、全県に比べてやや低い。これは、「書き直しましょう」とあるのに、付け加える内容だけを書いたことによって、ナナホシテントウであるかどうか分からない記述になったり、育ち方の順をすべて書けなかったりしたことによって低くなったのではないか。元の情報と新たな情報を比べ、何が必要な情報なのか判断することが課題と思われる。

△「メスシリンダー」と答える問題は例外だが、記述式と短答式の無回答率が全国、全県に比べて高い。国語や算数も同様であるので、全体的にみると「書く」ことを苦手とする児童が多いことが理由として言えるのではないか。

△どの教科にも言えることだが、問題を順番に答えていくので、最後の問題に到達できずに時間になってしまう。これも無回答率が高い原因と考えられる。時間内にすべての問題に答えられるようになることも課題。

△日光は直進することを理解している児童が少なかったため、学び直しが必要である。

△実験で得た結果を、問題の視点で分析して、解釈し、自分の考えをもち、その内容を記述できる

力を育てる必要がある。

#### 今後の対策

- ・提示された情報を複数の視点で分析・解釈したり、観察などで得た結果を複数の視点で分析・解釈したりという授業が少なかったので、今後積極的に行っていく必要がある。
- ・多くの問題を時間内に解くことに慣れていくことも必要であると考え。
- ・実験をしてその結果を記録するだけでなく、その結果からどのようなことが言えるのか考察する機会を意図的に設けることが必要である。
- ・実験や観察をする際には、単元を通して学んだ基本的な知識や実験器具の名前を振り返りながら学習を進めることが求められる。

### 【中学校（3 学年）】

#### 国語科

##### ○全国平均正答率より高い問題概要

1 三 スピーチのどの部分をどのように工夫して話すのかと、そのように話す意図を書く

【出題の趣旨】自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫して話す

3 四 「おれ」は何を「なるほど」と思ったのかについて、話の展開を取り上げて書く

【出題の趣旨】場面と場面、場面と描写などを結び付けて、内容を解釈する

○「話すこと・聞くこと」に関して、すべての項目で全国平均正答率より高い。

○「書くこと」に関して、全国平均正答率より低い問題概要はなし。

△「言葉の特徴や使い方に関する事項」に関して、全国平均正答率より特に低い問題概要

2 二① 漢字を書く（のぞく）

2 二② 漢字を書く（よろこんで）

【出題の趣旨】文脈に即して漢字を正しく書く

3 一 「陽炎みたいに揺らめきながら」に使われている表現の技法の名称を書き、同じ表現の技法が使われているものを選択する

【出題の趣旨】表現の技法について理解する

#### 今後の対策

- ・「我が国の言語文化に関する事項」に関わって、多くの漢字に触れ、語彙を豊かにするとともに、語句を適切に活用するために、自分が理解したり表現したりしたことを書く場を多く設ける。
- ・ICT活用を進める一方で、文章の要約や本文の叙述をもとに登場人物の心情を記述する、表現の特徴を模倣して作文するなど、自らの手で字を書く場を大切にしていく。

#### 数学科

##### ○全国平均正答率より高い問題概要

1 4 2 を素因数分解する

【出題の趣旨】自然数を素数の積で表すことができる

5 容器のふたを投げたときに下向きになる確率を選ぶ

【出題の趣旨】多数の観察や多数回の試行によって得られる確率の意味を理解している

7 (2) 箱ひげ図の箱が示す区間に含まれているデータの個数と散らばりの程度について、正し

く述べたものを選ぶ

【出題の趣旨】箱ひげ図から分布の特徴を読み取ることができる

△「関数」に関して、全国平均正答率より特に低い問題概要

4 変化の割合が2である一次関数の関係を表した表を選ぶ

【出題の趣旨】一次関数の変化の割合の意味を理解している

8(1) 与えられたグラフにおいて、点Eの座標を書く

【出題の趣旨】与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に読み取ることができる

8(2) 目標300kgを達成するまでの日数を求める方法を説明する

【出題の趣旨】事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができる

△「データの活用」に関して、全国平均正答率より特に低い問題概要

7(1) コマ回し大会で使用するコマをヒストグラムの特徴を基に選び、選んだ理由を説明する

【出題の趣旨】データの傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができる

今後の対策

- ・「関数」に関して、グラフの特徴を比較して読み取る場面を意識して設定していく。
- ・「データの活用」に関して、数学的な説明方法を確認し、データを読み取りそれについて説明する場面を設けていく。
- ・全体として、1年や2年の既習内容を繰り返し復習する場を設けて、知識・技能の定着を図る。

理科

○全国平均正答率より高い問題概要

1(1) 日常生活の中で、物体が静電気を帯びる現象を選択する。

【出題の趣旨】日常生活や社会の中で物体が静電気を帯びる現象を問うことで、静電気に関する知識及び技能を活用できるかどうかみる。

4(2) 脊椎動物には骨格のつくりに通点があることから、カラスの関節Aに対応するヒトとカエルのあしの関節を選択する。

【出題の趣旨】複数の脊椎動物の外部形態の考察を行う場面において、あしの骨格について共通性と多様性の見方を働かせながら比較し、共通点と相違点を分析して解釈できるかどうかをみる。

8(1) アリが視覚による情報を基に行列をつくるかを調べた実験の結果を基に、課題に正対した考察を記述する。

【出題の趣旨】アリの行列のつくり方を探究する場面において、視覚による情報を基に行列をつくるかを調べた実験結果を分析して解釈し、課題に正対した考察を行うことができるかどうかをみる。

△「生命」に関して、全国平均正答率より特に低い問題概要。

8(3) 生物Xが昆虫類かどうかアリと比較しながら、観点と基準を明確にして判断する。

【出題の趣旨】未知の節足動物とアリの外部形態を比較して共通点や相違点を捉え、分類の観点や基準を基に分析して解釈できるかどうかをみる。

## 今後の対策

- ・「粒子」を柱とする領域と「エネルギー」を柱とする領域については、目に見えない粒子の存在や力の大きさなどを、モデルや ICT 機器を活用し、抽象的にイメージし、実感しながら追究する場を設定していく。
- ・「生命」を柱とする領域と「地球」を柱とする領域については、学習した対象を比較し、共通点や相違点を意識した考察をする場面を設定していく。

## (2) 児童生徒質問調査の結果（特徴的な事項について）

### 【小学校（6 学年）】

- ・「自分にはよいところがあると思いますか」「学校授業時間外に、普段一日当たりどのくらいの時間、読書しますか」「家で、自分で計画を立てて勉強していますか」の質問の回答については全国に比べて当てはまる児童が少なかった。
- ・書く問題について「最後まで書こうと努力した」の回答が国語科では全国を上回っていた、算数科と理科では下回った。これは国語の授業において普段から書く活動を重視していることが影響して抵抗感が少なかったと考えられる。
- ・「携帯電話、スマホ、コンピューターの使い方について、家の人と約束を守っていますか」の回答が全国と比べて少なかった。家庭環境の傾向もあると考えられるが、機器を持つ児童が多いことから約束を守ることを家庭で徹底されていくことが望まれる。

### 【中学校（3 学年）】

- ・「難しいことでも失敗を恐れなくて挑戦していますか」では全国より大きく上回っている。安心して学べる環境、授業、学ぶ仲間が構築されていると考える。
- ・「自然の中で学ぶことや自然観察をすることがありますか」では全国より大きく上回っている。日頃から白馬村の自然を大切に、学ぶ姿勢が出来ていると考える。
- ・「地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがありますか」では全国より大きく上回っている。総合的な学習やSDGsの取組が大きくかかわっていると考える。
- ・ICT機器活用については、全質問に対して回答が全国を非常に大きく上回っている。白馬村が早い段階で機器を導入した成果が表れていると考えられる。

## 3 学力向上に向けた今後の取組

### 【学校の取組】

#### (1) 授業改善

- ①結果をもとに課題となった教科・領域の「学び直し」の時間を各校で確保して実施した。課題のある内容についての補充は必要である。
- ②授業のねらいを達成させるために魅力ある学習課題（内容、提示の仕方等）の設定を工夫する。
- ③授業終末時に学習課題についての達成度を振り返る時間を確保する。
- ④考えを伝え合う言語活動を基盤として、共に課題を解決し、自分の考えを深めることができる「主体的・対話的で深い学び」の実践を積み上げていく。
- ⑤基礎・基本の定着に向けては、授業の中で繰り返し学習する場を設定する。
- ⑥補充的学習や発展的学習に積極的に取り組むようにする。

⑦学習環境を整備するとともに、一人一人が体験的に学べる場を設定する。

(2) 授業におけるICT機器の活用

①資料、写真等やシュミレーションソフトを使い、場面提示を工夫する。

②授業における基礎的な知識や技能の習得場面と、習得したことを基に活用する場面でICT機器を積極的に活用する。

【教育委員会の取組】

(1) 各校の実情に応じた村費による教育支援員（講師）の配置。

(2) 小学校の英語学習支援員の配置。

(3) コミュニティ・スクール（地域の教育力を活かした学校教育）の充実。

(4) ICT機器の利活用の推進。

(5) 学力向上対策委員会で作成した「学習の手引き」（家庭学習の手引き）の活用促進。